

マンガの聖地としまの皆さん

これも学習マンガだ! 大人も学べるマンガ入門

第9回

「これも学習マンガだ!」を主催する一般社団法人マンガナイトの連載です。



ジャンル：戦争

『カジムヌガタイ』

著者：比嘉 遼

出版社：講談社



企画監修：山内康裕
(マンガナイト代表・「これも学習マンガだ!」事務局長)
構成：松尾奈々絵(マンガナイト理事)

第二次世界大戦末期の1945年、沖縄本島を中心に日本軍とアメリカ軍との間で行われた「沖縄戦」。沖縄戦では本土上陸を遅らせるための時間稼ぎの作戦がとられ、住民は戦争に総動員されました。また、現地では日本兵による住民に対しての食料の強奪や壕の追い出し、拷問や虐殺が行われ、集団自決の強要をされたという記録が残っています。

そうした沖縄戦の戦中・後の様子を、戦争に巻き込まれた沖縄の一般住民の視点から描いた6編の短編集が『カジムヌガタイ』です。娘たちを犯しにやってくる米兵を相手に、集落の人々が一致団結して戦う話のほか、壕を明け渡さなかつたという理由で家族を日本軍によって殺された少女の話、食料の提供に抗議をした父親が日本軍によって拷問された話、日本軍の特務機関の男によってマリアアの巣窟の島に集団疎開を命じられる話など、アメリカ兵だけではなく、日本兵による残酷な行為によって命を落としたことも描かれています。記録だけに敵、内にも敵——。記録だけ

ではなく、マンガという物語を通じて読むことで、戦争と付随して行われる暴虐の理不尽さ、そしてそれに対する怒りや悲しみ、思いがより一層伝わってきます。

1972年の本土復帰まで米軍統治下におかれた沖縄ですが、現在もなお、在日米軍基地面積の約70パーセントが沖縄に偏在します。沖縄戦でどのようなことが行われ、今に繋がっているのか。それを知るためにも日本人にとって必読の本ではないでしょうか。

「今の日本軍はそんなものだ上にいけばいくほどかばいあい責任をとろうとしない」「失敗の本質を見極めようともせず」「それでいて前線の兵士には責任を押し付ける」「そういう奴らが国を牛耳ってる やがて日本を滅ぼしてしまっね そいつらは」と、作中に出てくる中尉は語りますが、さて…。政治や政府の意思決定について、私たち自身でもちゃんと考えることの必要性を改めて感じることができるといでしょう。

これも学習マンガだ!

Manga Edutainment 世界発見プロジェクト

Supported by 日本 THE NIPPON 財団 FOUNDATION

「これも学習マンガだ!」は、新しい世界を発見できるマンガや学びにつながるマンガを選出・発表し、国内外の読者に作品を届ける事業です。マンガの持つ「楽しさ」「分かりやすさ」「共感性」に着目し、社会をより良いものにしていきます。

マンガナイト
<http://gakushumanga.jp/>

